



もなみの里だより



2026年 3月

発行責任者 山崎晶宏



1月に3階のユニットで感染性胃腸炎と新型コロナ感染症の発生があり、面会制限など、ご家族の皆さんには御心配をおかけしました。全国的にも感染症が流行しておりますので、職員一同、引き続き感染対策を徹底して参ります。引き続き面会時の体温測定や体調確認など感染予防対策に御協力宜しく願います。

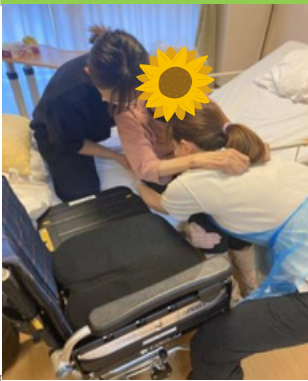
医務室 看護師長 川本

生活アセスメント評価 (1カ月に1回実施)

生活アセスメントとは、特養もなみの里で行われているリハビリ (特に日常動作訓練) 評価です。第三者の目 (勤医協病院のリハビリ技士) により、入居者さんの動きを評価したり、アドバイスを頂いています。日々の生活に寄り添っている介護職員の、なぜ、どうして、どのように本人の持っている力を引き出せるのか? どのような援助が望ましいのか? その疑問を少しでもなくしていく目的があります。その事により入居者さんへのより良い対応を目指していく学びと実践の機会と考えています。

生活アセスメント 評価の様子

(両足を床につけない利用者さんのベット → 車椅子への移乗について)



両足を床につけないように膝下と臀部・背中を支えながら本人と呼吸を合わせ移乗開始



本人の不安がないように、上半身・下半身をしっかりと支えて、2回に分けて回転動作を行う



2回目の回転介助の際も本人に声かけをして、心の準備をもらう事で痛みや不安なく移乗できる

座る姿勢を評価

移乗介助する際、確認する事

- ①ベットでの座る姿勢
 - ・背中を支えないと後ろに倒れてしまわないか?
 - ・腕を支えないと前に倒れてしまわないか?
- ②車椅子での座る姿勢
 - ・しっかりと臀部を深くして座っているか?
 - ・両足をしっかりとフットレストにのせているか?
- ③本人にとって安楽な姿勢か? 体に余計な力が入っていないか?



3/1雪解け始め



3/4 すっかり雪景色



病院と特養のリハビリの違い?

ショートステイ・入所の担当は言語聴覚士1名が担っています。病院のリハビリ (回復期リハ病棟) では1人の患者につき、リハビリ担当者は多い時は3名・3時間近くリハビリを行います。そのため特養では、リハビリ職員が直接、機能訓練向上に関わるよりも、生活の場面それ自体をリハビリと考えており、施設職員と協力していくことを主とします。もなみの里の介護職員は、リハビリの視点を持ち、ひとりひとりの生活背景に配慮しながら、関わることが分かります。今後もリハビリ職員一人ではなく、施設職員で協力していけるよう皆さんを支援したいと思えます。

札幌 理学療法士 滑川さんです



2025年11月より月に1回訪問しています。病院との環境の違いを感じながら自分自身もたくさん勉強させて、いただいています。利用者さんのお顔も徐々に覚えてきて、毎月、皆さんに元気をもらっています。自分の持っている知識・経験をフル回転しながら少しでも皆さんのお手伝いができたらと思います。今後も宜しく願います。

編集後記



2月のさっぽろ雪まつりも穏やかな天候の中、沢山の観光客を迎え幕を閉じました。3月はまだ残雪があるものの、春の足音が少しずつ聞こえてきました。特養もなみの里では、感染対策を徹底しながら、元気な体作りとして集団体操やエレクトーン生演奏での歌会を月に2回程実施しています。大人数の中で見せる入居者さんの表情に驚きと喜びを感じています。

機能訓練指導員 藤野